

AIで犯罪対策 ダイワ通信がカメラシステム 不審者や車検知、メールで通知

経済

2022/11/19 05:00

📎 記事を保存 ✂️ 切り抜き紙面



不審な人物や車両を監視する防犯カメラシステムのモニター＝金沢市内（画像を一部加工しています）

● ストーカー被害を防止

ダイワ通信（金沢市）は18日までに、人物や車両を識別する防犯カメラシステムを開発した。人工知能（AI）を活用し、「ブラックリスト」にあらかじめ登録した不審者の顔や車のナンバーを見分け、即座にメールで通知する。付きまといや待ち伏せなどのストーカー行為への対策を想定しており、犯罪被害の防止を図る。

ダイワ通信の「フェイス・ナンバー」は従来の防犯カメラに、昼夜を問わず人物と車両を検知する機能を加えた。通知メールには画像が添付され、スマートフォンで映像を確認することも可能だ。

警察庁の統計によると、昨年1年間に全国の警察に寄せられたストーカーの相談は1万9728件に上る。過去にはストーカー行為がエスカレートし、殺傷事件に発展したケースも少なくない。

ダイワ通信は今後、商業施設の駐車場警備や違法駐車の監視などへの展開も視野に入れ、警備会社や住宅メーカーからの需要を見込む。

同社はAIを活用し、通園バスの園児置き去り防止やクマの監視システムなどを開発している。岩本秀成社長は「画像や映像という動かぬ証拠を確保すると同時に、リアルタイムに注意を促せる。ストーカー対策に加え、あらゆる用途に技術を生かしたい」と話した。